

## インフルエンザワクチンの効果について

インフルエンザウイルスの流行のピークは、1月から2月にかけて最も多くなります。ワクチンを接種して効果が現れるまで、通常2週間程度かかり、約5ヶ月間その効果が持続するとされています。

効果につきましては、米国では予防接種の実施に関する諮問委員会から、ワクチン株と流行株とが一致している場合には、65歳以下の健常人での発症予防効果は70～90%、施設内で生活している高齢者での発症予防効果は30～40%と下がりますが、入院や肺炎を防止する効果は50～60%、死亡の予防効果は80%みられたと報告されています。日本でも、厚生科学研究費による「インフルエンザワクチンの効果に関する研究」の報告によると65歳以上の健常な高齢者については約45%の発症を阻止し、約80%の死亡を阻止する効果があったとされています。

インフルエンザに対する治療薬も実用化されていますが、感染前にワクチンで予防することがインフルエンザに対する最も有効な防御手段であります。

## 結核に似た感染症 急増

結核に似た呼吸器感染症「非結核性抗酸菌症」の罹患率が、7年で2.6倍に急増しています。

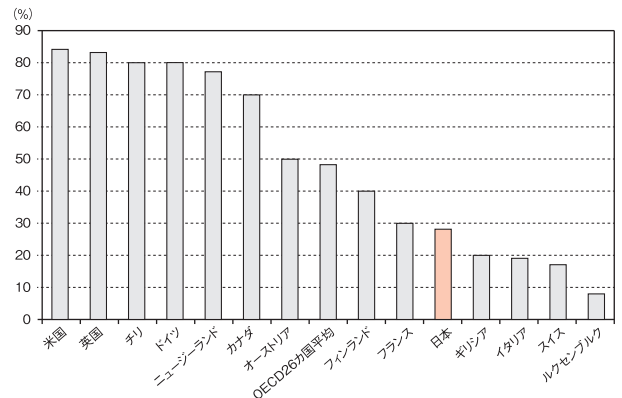
非結核性抗酸菌症は結核菌と同じグループの抗酸菌に感染して起こります。せきやたんなどが主な症状で、重症化した場合、死亡するケースもあります。人から人へは伝染しませんが、結核患者に用いられる抗菌薬で治療しても根治は難しい。

非結核性抗酸菌は100種類以上あり、土や水の中にすみ着いています。感染経路は分からないことが多く、予防策はありません。せきが長引くなどの症状が出たら早めに受診することをお勧めします。

## ジェネリック医薬品の市場占有率

OECD（経済協力開発機構）によると、各国の医薬品市場におけるジェネリック医薬品の占有率は、1位は米国の84%、最下位がルクセンブル

クの8%で、調査対象26か国の平均は48%となりました。日本は28%であり、調査国の中で下位の結果でした。増え続ける医療費を抑えるため、国はジェネリック医薬品の利用拡大を図っていますが、なかなか普及しない様子を反映する結果となりました。ちなみに日本は、国民1人当たりの医薬品支出は米国に次ぐ2位でした。



## 高齢者の生きがい

日 本		米 国	
1	子どもや孫など家族との団らん	1	子どもや孫など家族との団らん
2	趣味	2	友人・知人との食事や雑談
3	おいしいものを食べているとき	3	おいしいものを食べているとき
4	テレビを観たり、ラジオを聴くとき	4	他人から感謝されたとき
5	友人・知人との食事や雑談	5	テレビを観たり、ラジオを聴くとき
ド イ ツ		ス ウ ェ デ ン	
1	子どもや孫など家族との団らん	1	子どもや孫など家族との団らん
2	友人・知人との食事や雑談	2	友人・知人との食事や雑談
3	おいしいものを食べているとき	3	他人から感謝されたとき
4	旅行	4	旅行
5	趣味	5	おいしいものを食べているとき

内閣府が行った高齢者の生活意識に関する国際比較調査にて上記の結果となりました。（対象：60歳以上男女、施設入所者は除く。）「生きがいを感じる時はどんなときか？」の問いに対して、いずれの国も「子供や孫との団らん」が1位となり、日本以外の3国では、「友人・知人との食事や雑談」が2位の結果でした。同調査で、「親しい友人はいるか?」、「家族以外に頼れる人はいるか?」との問いも行われており、いずれも「いない」と答える割合は日本が最も高い結果となりました。